

都市における鉄道駅の影響分析と評価

株式会社オオバ	正会員	○野間田 享平
大阪工業大学	正会員	田中 一成
大阪工業大学	正会員	吉川 眞

1. はじめに

現在の鉄道駅は都市構成を考える上で欠かすことのできない交通機関のノード（node:結節点）となっている。ここでは人々が集まる（収束，発散する）という利点を活かし，現在ではショッピングモールや駅チカ，エキナカなど，当初の鉄道を利用するという目的以外の用途が多様化し，交通機関を接合するだけの場ではなくなっている。このように鉄道駅は都市空間においての位置を保ち続けるために構造や形態，用途を変化させ，進化を続けており，時代によって変化する人々のニーズに応える役割を担っている。

したがって，これらのことから鉄道駅は都市空間の中で「場の中心」としての重要な要素を担っていると考えられ，その役割と位置づけを解明することは今後の駅開発や都市開発の発展につながると期待されている。

2. 研究の目的と方法

「人はどこから駅前もしくは駅と感じるのか.」「そもそも駅前とはどのようなものなのか.」これらの疑問は，人が駅周辺に対し，駅が影響を及ぼしている空間を「駅前」という曖昧な空間としてイメージし，それが世の中では具体的な定義がされず，曖昧な状態で浸透しているために発生すると考えられる。またこの現象は，吉竹純氏の歌集『過去未来』において「英会話，ローン，牛井，ハンバーガー，ここはどこかのすべての駅前」と歌にして「駅前の風景」が詠まれていることから，曖昧であるが認識できる現象ということがわかる（図1）。



図1 駅前の風景（イメージ）

そもそも現在は，駅を中心として開発され発展してきた都市地域・地区が多くみられる。これは，駅の集客力や交通の利便性を利用し，相乗的に都市を活性化，発展させようという方法であり，地域・地区の特徴を核とした駅とその周辺開発などを積極的に行うことで結果的に都市の活性化を促すことができる。駅により異なる「駅前」「駅周辺」の都市空間は各駅の影響を受け，また駅に影響を，及ぼしながら発展してきている。

これらのことから，本研究では駅が都市に及ぼしている影響を駅周辺地域の施設や店舗の名称に着目し，それらの位置情報を空間的に取り扱うことで広域や狭域における様々な視点から分析・評価を行い明確化する。

キーワード 駅，都市，名称，影響，空間情報技術

連絡先 〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4-12-101 株式会社オオバ TEL03-3460-0111

3. 位置情報データの構築

駅と共に発展する駅周辺の都市構造や駅の影響を分析するために、web 上の施設・店舗の住所を検索できるサービスを利用し、対象範囲内の都市施設・店舗の住所データを作成した。さらに、住所データに位置情報を付与することで GIS 上に展開し、本研究を行っていく上でベースとなるデータの構築を行った。

4. 狭域分析

都市内にはさまざまな業種の施設や店舗が存在し、それらが集中して分布することにより、都市の形が形成されている。その都市施設や店舗には、施設毎に名称がついている。都市構造を把握する研究において、倍田、大佛らは建物名称から駅の勢力圏や街の広がりを探っており、建物名称の中には駅名や地名を含むものが多いため、空間イメージの広がりについて議論する上で建物の名称の付け方を重要としている。このことから、本研究では、その中でも「〇〇駅前店」という都市施設・店舗の名称付けに着目し、その名称のつく施設を GIS 上に展開した。さらにこれを業種による分類を行い、業種毎の「〇〇駅前店」の割合や位置関係などを JR において把握した。そして、それらのデータを用いて空間分析を行うことで、駅の影響の広がりや傾向を得ることができ、複数の路線や駅の分析を行っていく上での分析手法を見出した。(図 2, 3)

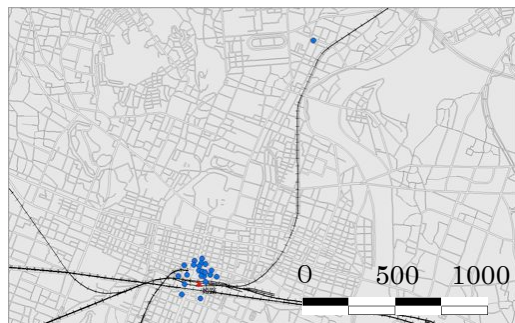


図 2 JR 姫路駅前店の分布

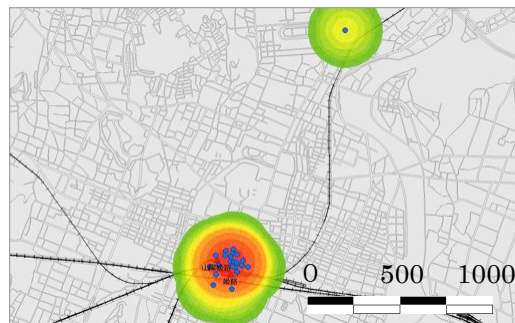


図 3 JR 姫路駅前店の密度分布

5. 広域分析

狭域分析により開発した分析手法を広域な範囲に広がる 5 つの路線と各駅に適用し、路線毎や路線間で比較を行った。この広域分析においては、分析を行う駅のサンプル数の多さや複数のエリアを跨ぐ複数の路線という点を活かし、視野を広げ分析を行うことで、さまざまな駅前や駅周辺の特徴を探る。この結果、駅の影響のパターン、強い影響が近くにあるもの、広く比較的弱い影響が広がっていないものなど、駅周辺の分類を見出すとともに、路線毎の傾向を把握した。(図 4)

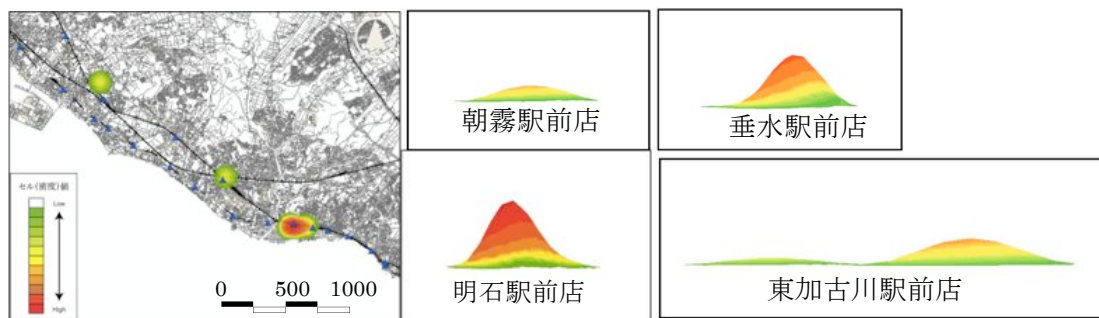


図 4 駅の影響

6. まとめ

本研究では、対象路線周辺の都市空間内に存在する都市施設の分布状況等から、駅の影響は都市にどのような影響を与えているのかということを解明するとともに、それらの特徴を把握した。今後は、方法の汎用性や他指標との関係について比較する必要がある。

参考文献

- ・倍田賢一、大佛俊泰：建築名称の空間分布、日本建築学会大会学術講演概要集 pp783-784、1996 年